

# 長畝ふるさと通信

【2017年8月号】

## ■ 短～い夏でした・・・

7月末の大雨に続き、8月8日の台風5号直撃など、近年にない自然災害が襲来し皆様には大変ご心配をおかけいたしました。おかげさまで、たいした被害もなく稲は順調に生育し秋の収穫を迎えられそうです。それにしても全国各地で発生する自然災害は年を追うごとに激しさを増しているように思えます。これも人間の身勝手な欲望が原因だと思ふと地球さんに申し訳ないような気もしますが・・・



## ■ WCS(稲醗酵粗飼料)の刈り取りが始まりました



JA佐渡が今年から取り組みを始めた佐渡和牛繁殖支援施設へのエサ供給に協力するために栽培した稲(コシヒカリ)の青刈りが8月から始まりました。



トラクターにセットした専用の刈払機で出穂したばかりの青い稲を刈り倒し、これまた専用の集藁機でロール状に丸め、ラッピング機でグルグル巻きにして発酵させ飼料にするんです。JAでは3年かけて250頭まで拡大するそうで、そのために必要なWCSはおよそ100haにもなるそうです。組合の田んぼは全部で100haですから、その全部をWCSにしてしまえば秋の稲刈りや乾燥・調製から出荷・販売の手間がすべてなくなるのですがそれではとても経営が持ちません。できる限りの協力は惜しみませんが、やはり人間の食べるお米をもっとたくさん作りたいたいです。そのための田んぼですから・・・。

## ■ 田からもの(宝物)未来会議

8月19日、トキ認証米10作目を記念して「田からもの(宝物)未来会議」が開催されました。トキ関連で交流のある出雲・豊岡・能登・小山そして佐渡の子供たち総勢50人で「トキになって田んぼのエサを探そう」と生きもの調査をしました。トキが1日に必要な摂取エネルギーは325キロカロリーだそうです。50人がかりで30分かけて捕獲した田んぼの生きもの(バッタ、ドジョウ、トンボ、クモなど)をカロリー計算すると「428.5キロカロリー」でした。バッタなどの昆虫は1匹1キロカロリーしかないんですから、トキの捕獲能力は相当なもの。参加した子供たちからは「トキの苦労が良

く分かった」「もっとたくさんの生き物がいる田んぼが必要」などの感想が聞かれました。その後、



田んぼの脇に掘られた「江」をみんなで整備して生きものたちが安心して暮らせる環境をつくる体験もしました。2020年までに野生下のトキ定着220羽を目標とした環境省。田んぼ百姓として責任をもってトキが餓死しないだけの生きものいっぱい田んぼをこれからも守っていきます。

## ■ 現地視察交流会はみんな笑顔で

8月20日、今年もお米屋さんを招待しての現地視察交流会を開催しました。今回は沖縄・大阪・神奈川・新潟のお米屋さんとお米関連業界の方々8名が参加されました。初めて佐渡を訪れたお米屋さんは佐渡の広大な田んぼ風景に感激もひとしお、大変気に入っていただけました様子でした。

懇談会では生産調整が廃止される「30年問題」について意見交換させていただきました。生産調整廃止によるコメ過剰生産で米価の水準は今よりも低く推移するとの見方が大半で、その中で持続的に「高品質・良食味米」づくりをしていくのは困難。需要に合ったコメづくりを進めようとするれば、価格の安い業務用米や多収穫米に生産がシフトし、作業効率を上げるために農薬や化学肥料を使ってしまえばこれまで努力してきた環境保全型農業とは逆行してしまう。何よりもそんな事態になったら、これまで佐渡米を食べてくれた消費者を裏切ることにもなりかねない。ジレンマが頭をよぎります。参加したお米屋さんからは「佐渡はそんな流れに乗ってほしくない。お客様へは佐渡のお米の良さを丁寧に説明して、これからも販売努力していくから頑張れ」とエールを送られ、励まされました。懇親会ではみなさん、この笑顔。これからもよろしくお願ひ致します。





## ■ 緑の畦は佐渡の誇りです

いよいよ秋の収穫が始まります。8月後半の炎天下の中、佐渡のコメ百姓はせつせと最後の畦草刈りに余念がありません。除草剤を使えばもっと楽になるのですが、それでは畦で暮らすバッタやクモたちは生活の場を失ってしまいますし、結果トキのエサ量も減少するのです。何よりも佐渡のコメ百姓は畦草をきれいに刈り込んだ田んぼの風景が好きなんです。



トキが集団で枯れ木にとまっています。放鳥から10年経ちました。おかげさまで佐渡のトキ認証米も全国にその名が知れ渡るようになり、それなりの販売高も見込めるまでとなりました。これもひとえに皆様方が支えてくださったおかげと感謝しております。

しかし、おコメ業界は平成30年から大きな転換期を迎えます。外食・中食など消費者のお米に対するニーズが大きく変化し、生産者をはじめ業界全体がその変化に対応しようともがき始めました。国の農政も「農業競争力強化プログラム」などと新たな改革路線を強硬に進めようとしています。

「今までと同じでは淘汰される・・・」日本のおコメ産業もそうになってしまうんですか・・・緑の畦はいつまで続けられることでしょうか。29年産米も引き続きご愛顧ください。

夏の朝、カブトムシやカナブンやハチが蜜に群がっています。仲良く分け合っているのでしょうか、それとも競争して奪い合っているのでしょうか・・・みなさんはどっちに見えますか？

